

SoftBank 203Z

お願いとご注意

このたびは、「SoftBank 203Z」をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- SoftBank 203Z をご利用の前に、「クイックスタート（準備編）」、「クイックスタート（接続編）」、「お願いとご注意（本書）」および「取扱説明書」をご覧になり、正しくお取り扱いください。
- 取扱説明書は、ソフトバンクモバイルホームページ（<http://www.softbank.jp/mobile/support/203z/>）からご確認ください。

SoftBank 203Zは、4G/LTE/3G方式に対応しております。SoftBank 4Gは、第3.5世代移動通信システム以上の技術に対しても4Gの呼称を認めるという国際電気通信連合（ITU）の声明に基づきサービス名称として使用しています。

ご注意

- ・本書の内容の一部でも無断転載することは禁止されております。
- ・本書の内容は将来、予告無しに変更することがございます。
- ・本書の内容については万全を期しておりますが、万一ござる不審な点や記載漏れなどお気づきの点がございましたら、お問い合わせ先までご連絡ください。

マナーとルールを守り安全に使用しましょう

安全のために

■こんな使いかたはやめましょう。

- 分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしてください。火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。
- 落としたり、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。故障などの原因となります。
- 本機を加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れたり、電磁調理器（IH調理器）の上に置いたりしないでください。故障などの原因となります。
- 高温になる場所（火のそば、暖房器具のそば、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用・放置しないでください。機器の変形・故障の原因となります。また、ケースの一部が熱くなり、やけどなどの原因となることがあります。
- 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、特に高温環境では熱くなることがありますので、ご注意ください。長時間肌にふれたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。

マナーを守ろう！

■安全のために使用が禁止されています。

- 航空機内では本機の電源を切ってください。航空機の安全に支障をきたす恐れがあります。航空機内で携帯電話等の電源を入れることは、法律で禁止されており、罰則の対象となります。
- 病院、研究所など本機の使用が禁止されている場所では、使用しないでください。医療機器などに影響をおよぼす場合があります。
- 電車やバスなどの優先席近くでは使用しないでください。ペースメーカーなど生命にかかわる機器に影響をおよぼすことがあります。
- ゴルフ場など野外で雷鳴が聞こえたときは、落雷の恐れがありますので、使用しないでください。

お問い合わせ先一覧

お困りのときや、ご不明な点などございましたら、お気軽に下記お問い合わせ窓口までご連絡ください。

電話番号はお間違いないようおかげください。

■ソフトバンクカスタマーサポート

総合案内
ソフトバンク携帯電話から 157(無料)
一般電話から ⑥ 0800-919-0157(無料)

紛失・故障受付
ソフトバンク携帯電話から 113(無料)
一般電話から ⑥ 0800-919-0113(無料)

IP電話などでフリーコールが繋がらない場合は、恐れ入ります下記の番号へおかげください。

東日本地域	022-380-4380(有料)
東海地域	052-388-2002(有料)
関西地域	06-7669-0180(有料)
中国・四国・九州・沖縄地域	092-687-0010(有料)

■データ通信サポート窓口

セットアップ、操作方法等についてのお問い合わせはどちら受付時間 平日 9:00～19:00
土日祝 9:00～17:00

ソフトバンク携帯電話から ⑥ *5525(無料)

一般電話から ⑥ 0088-21-5525(無料)

※海外からはご利用になれませんのでご了承ください。

■ソフトバンクモバイル国際コールセンター

海外からのお問い合わせおよび盗難・紛失については、下記の番号へおかげください。
+81-3-5351-3491
(有料、ソフトバンク携帯電話からは無料)

安全上のご注意

- ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。また、お読みになったあとは大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人の危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 本機の故障、誤動作または不具合などにより、通信などの機会を逸したために、お客様、または第三者が受けられた損害につきましては、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

表示の説明

次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危険や損害の程度を説明しています。内容をよく理解したうえで本文をお読みください。

	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 ^{※1} 」を負う危険が切迫して生じることが想定される内容です。
	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷 ^{※1} 」を負う可能性が想定される内容です。
	この表示は、取り扱いを誤った場合、「軽傷 ^{※2} 」を負う可能性が想定される場合および物的損害 ^{※3} のみの発生が想定される内容です。

絵表示の説明

次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

	禁止（してはいけないこと）を示します。
	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないと示します。
	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示します。
	分解してはいけないと示します。
	濡れた手で扱ってはいけないと示します。
	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示します。

203Z、USIMカード、ACアダプタ（ZECAP1）、microUSBケーブル（ZEDAD1）の取り扱いについて

△ 危険

	本機に使用するACアダプタ・microUSBケーブルは、ソフトバンクが指定したものを使用してください。 指定品以外のものを使用した場合は、内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や、ACアダプタの発熱・発火、microUSBケーブルの発熱・発火などの原因となります。
	分解・改造・ハンダ付けなどお客様による修理をしてください。 火災・けが・感電などの事故または故障の原因となります。また、内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火などの原因となります。本機の改造は電波法違反となり、罰則の対象となります。
	濡らさないでください。 水やペットの尿などの液体が入ったときに、濡れたまま放置したり、充電すると、発熱・感電・火災・けが・故障などの原因となります。使用場所、取り扱いにご注意ください。

△ 警告

	本機・ACアダプタ・microUSBケーブルを加熱調理機器（電子レンジなど）・高圧容器（圧力釜など）の中に入れたり、電磁調理器（IH調理器）の上に置いたりしないでください。 内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や、本機・ACアダプタ・microUSBケーブルの発熱・発火・発火・故障などの原因となります。
	プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所（ガソリンスタンドなど）では、必ず事前に本機の電源をお切りください。また、充電もしないでください。 ガスに引火する恐れがあります。プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災などの原因となります。
	落としたり、投げたりして、強い衝撃を与えないでください。 内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や感電・故障などの原因となります。

△ 注意

	ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。 落下して、けがや故障などの原因となります。
	乳幼児の手の届かない場所に保管してください。 誤って飲み込んだり、けがなどの原因となります。

203Zの取り扱いについて

△ 危険

	火の中に投しないでください。 内蔵電池を漏液・破裂・発火させるなどの原因となります。
	針を刺したり、ハンマーでたたいたり、踏みつけたり、強い衝撃を与えないでください。 内蔵電池を漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。

△ 警告

	内蔵電池内部の液が皮膚や衣服に付着した場合は、ただちに本機の使用をやめ、きれいな水で洗い流してください。 皮膚に傷害を起すなどの原因となります。
	所定の充電時間を超えてても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。 内蔵電池を漏液・発熱・破裂・発火させるなどの原因となります。
	ベットが噛みつかないようご注意ください。 内蔵電池の漏液・発熱・破裂・発火や機器の故障・火災の原因となります。

指示 本機の電波により運航の安全に支障をきたす恐れがあるため、航空機内では本機を使用しないでください。

機内で本機が使用できる場合は、航空会社の指示に従い適切にご使用ください。

指示 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、ただちに電源を切って屋内などの安全な場所に移動してください。

落雷や感電の原因となります。

禁止 本機をズボンなどのポケットに入れたまま、座席や椅子に座らないでください。

無理な力がかかるとディスプレイや内蔵電池などが破損し、発熱・発火・けがの原因となります。

指示 不要になった本機は、一般のゴミと一緒に捨てないでください。

最寄りの「ソフトバンクショッピング」へお持ちください。

禁止 車両電子機器に影響を与える場合は使用しないでください。

本機を自動車内で使用すると、車種によりまれに車両電子機器に影響を与え、安全走行を損なう恐れがあります。

指示 本機の使用により、皮膚に異常が生じた場合は、ただちに使用をやめて医師の診察を受けてください。

本機では材料として金属などを使用しています。お客様の体质や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などが生じることがあります（使用材料）参照。

△ 注意

禁止 本機に磁気カードなどを近づけないでください。

キャッシュカード・クレジットカード・テレホンカード・フロッピーディスクなどの磁気データが消えてしまうことがあります。

禁止 本機を長時間ご使用になる場合や充電中など、特に高温環境では熱くなることがありますので、ご注意ください。長時間肌にふれたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。

USIMカード、SDカードの取り扱いについて

△ 注意

禁止 USIMカードの取り付けおよび取り外し時に無理な力を加えないでください。

故障の原因となります。また、取り外しの際、手や指などを傷つけないようにご注意ください。

禁止 USIMカードは指定以外のものを使用しないでください。

指定以外のカードを使用すると、データの消失・故障の原因となります。

禁止 USIMカードのIC部分への接觸は、データの消失や故障の原因となる可能性があります。不要なIC部分への接觸は避けてください。

本機を使用中、USIMカード自体が温かくなることがあります。異常ではありませんのでそのままご使用ください。

ACアダプタ（ZECAP1）、microUSBケーブル（ZEDAD1）の取り扱いについて

△ 警

お願いとご注意

ご利用にあたって

- SoftBank 4Gサービスは、専用機種以外は利用できません。
- 本機はソフトウェアアップデートに対応しております。ソフトウェアは最新の状態でご利用ください。
- 本機は電波を利用してるので、サービスエリア内であっても屋内、地下、トンネル内、自動車内などでは電波が届きにくくなり、通信が困難になることがあります。また、通信中に電波状態の悪い場所へ移動すると、通信が急に途切れることがありますので、あらかじめご了承ください。
- 本機を公共の場所でご使用になるときは、周りの方の迷惑にならないようにご注意ください。また劇場や乗り物などによっては、ご使用できない場合がありますのでご注意ください。
- 本機は電波法に定められた無線局です。したがって、電波法に基づく検査を受けていただく場合があります。あらかじめご了承ください。
- 以下の場合、登録された情報内容が変化・消失することがあります。情報内容の変化・消失については、当社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。情報内容の変化・消失に伴う損害を最小限にするために、重要な内容は別にメモを取るなどして保管してくださるようお願いいたします。
- 誤った使いかたをしたとき
- 静電気や電気のノイズの影響を受けたとき
- 動作中に電源を切ったとき
- 故障したり、修理に出したとき
- 海外で無線LANをご利用される場合はその国の法律に基づいた設定変更が必要となります。設定については、取扱説明書をご確認ください。
- 回線の混雑状況や通信環境などにより、通信速度が低く、または通信できなくなる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 爆発物を取り扱う場所、その近辺では本機を使用しないでください。爆発を誘発する恐れがあります。また、爆破装置などに影響を与える場合があります。
- 本機を利用するUSIMカードは、一部機種（これまで当社より発売された機種を含む）ではご利用になれません。
- 充電中や長時間連続でご使用された場合、本機が熱くなることがあります。
- 長時間肌に触れたまま使用していると、低温やけどの恐れがあります。取り扱いにはご注意ください。
- 充電中ACアダプタが熱くなることがあります。

お取り扱いについて

- 雨や雪の日、および湿気の多い場所でご使用になる場合、水に濡らさないよう十分ご注意ください。
- 本機は防水仕様ではありません。
- 本機を極端な高温または低温、多湿の環境、直射日光のある場所、ほこりの多い場所でご使用にならないでください。
- 本機を落としたたり衝撃を与えないでください。
- 本機をお手入れの際は、乾いた柔らかい布で拭いてください。また、アルコール、シンナー、ベンジンなどを用いると色があせたり、文字が薄くなったりすることがありますので、ご使用にならないでください。

無線LANについて

周波数帯域について

無線LAN搭載機器が使用している周波数帯は、本機の個装箱に記載されています。

2.4DS/OF4

- 2.4 :周波数2400MHz帯を使用する無線装置であることを示します。
- DS/OF :変調方式がDSSS, OFDMであることを示します。
- 4 :想定される与干涉距離が40m以下であることを示します。
- 2400MHz～2483.5MHzの全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避できることを示しています。

- 利用可能なチャンネルは国により異なります。
- 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。
- 無線LANを海外で利用する場合、ご利用の国によっては使用場所などが制限される場合があります。その場合は、その国の使用可能周波数、法規制などの条件をご確認のうえ、ご利用ください。

無線LANについてのお願い

- 電気製品・AV・OA機器などの磁気を帯びているところや電磁波が発生しているところで使用しないでください。
 - 磁気や電気雑音の影響を受けると雑音が大きくなったり、通信ができなくなることがあります。特に電子レンジ使用時には影響を受けることがあります。
 - テレビ、ラジオなどに近いと受信障害の原因となったり、テレビ画面が乱れることがあります。
 - 近くに複数の無線LANアクセスポイントが存在し、同じチャンネルを使用していると、正しく検索できない場合があります。
- 無線LAN搭載機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの家庭用電化製品や産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。
 - この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
 - 万が一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するかご利用を中断していただいだうえ、混信回避のための処置（例えば、パーティションの設置など）を行うか、使用場所を変更してください。
- 無線LANは、LANケーブルの代わりに、電波を利用してパソコンなどの無線LAN端末と無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲内であれば自由にLAN接続が可能となるという利点があります。
 - その反面、電波が届く範囲内であれば、障害物（壁など）を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合は、通信内容を盗み見られたり不正に侵入されたりするなどのセキュリティ上の問題が発生する可能性があります。本機は、お買い上げ時の状態でセキュリティ機能が働くように設定されています。ただし、安全性を考慮して、お買い上げ時のセキュリティ設定を変更してお使いになることをお勧めします。セキュリティ機能の設定方法については、取扱説明書およびお使いの無線LAN端末の取扱説明書を参照してください。
 - 無線LANの仕様上、特殊な方法によってセキュリティ設定が破られることがありますので、ご理解いただいたうえでお使いください。
 - セキュリティ設定などについて、お客様で対処できない場合には、お問い合わせ先までご相談ください。
 - 無線LAN機能をご利用の際に、上記のようなセキュリティに関して発生するいかなる問題についても、当社は保証いたしかねますのでご了承ください。

知的財産権について

- SoftBankおよびソフトバンクの名称、ロゴは日本国およびその他の国におけるソフトバンク株式会社の登録商標または商標です。
- ZTE、ZTE中興およびロゴは、ZTE Corporationの中国およびその他の国における商標または登録商標です。Copyright © 2012 ZTE Corporation. All rights reserved.
- Microsoft®、Windows®、Internet Explorer、Windows Vista®は、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。WindowsはMicrosoft Windows operating systemの略称として表記しています。
- iPhoneの商標はアイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。iPhone、iPad、Multi-TouchはApple inc.の登録商標です。TM and © 2011 Apple Inc. All rights reserved.
- AppleはApple Inc.の商標です。
- PlayStation、PS3、PSPは、株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。また、PSVITAは同社の商標です。
- ニンテンドー3DS LL、ニンテンドー3DS、ニンテンドーDS、ニンテンドーDSi LL、ニンテンドーDSiおよびニンテンドーWi-Fiコネクションは、任天堂の商標または登録商標です。
- microSD、microSDHCロゴは、SD-3C、LLCの商標です。
- 「Android™」は、Google Inc.の商標または登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

203Zの比吸収率(SAR)について

この製品【203Z】は、電波防護の国際ガイドラインに適合しています。

この製品は、国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関(WHO)と協力関係にある国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が定めたものであり、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率を含んでいます。

国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)で定めており、この通信端末に対するSARの許容値は2.0W/kgです。この製品を次に記述する所定の使用法で使用した場合のSARの最大値は0.584W/kgです。個々の製品によってSARに多少の差異が生じることがありますが、いずれも許容値を満足しています。

この製品を人体の近くでご使用になる場合

この製品を人体の近くでご使用になる場合、身体から1.0センチ以上離してご使用ください。このことにより、この製品は電波防護の国際ガイドラインに適合します。

世界保健機関は、「携帯電話が潜在的な健康リスクをもたらすかどうかを評価するために、これまで20年以上にわたって多数の研究が行われてきました。今日まで、携帯電話使用によって生じるとされる、いかなる健康影響も確立されていません」と表明しています。

*携帯電話機本体を側頭部以外でご使用になる場合のSARの測定法については、平成22年3月に国際規格(IEC62209-2)が制定されました。

SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい場合は、下記のホームページをご参照ください。

総務省のホームページ

<http://www.tele.soumu.go.jp/sys/ele/index.htm>

一般社団法人電波産業会のホームページ

<http://www.arib-emf.org/index02.html>

米国連邦通信委員会(FCC)の電波ばく露の影響に関する情報

米国連邦通信委員会の指針は、独立した科学機関が定期的かつ周到に科学的研究を行った結果策定された基準に基づいています。この許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となっています。

携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)という単位を用いて測定します。FCCで定められているSARの許容値は、1.6 W/kg となっています。

測定試験は機種ごとにFCCで定めた位置で実施され、下記のとおりに從って身体に装着した場合は0.51W/kg です。

身体装着の場合: この機種【203Z】では、一般的な携帯電話の装着法として身体から1.0センチに距離を保ち携帯電話機の背面を身体に向ける位置で測定試験を実施しています。FCC の電波ばく露要件を満たすためには、身体から1.0センチの距離に携帯電話を固定できる装身具を使用し、ベルトクリップやホルスターなどには金属部品の含まれていないものを選んでください。

上記の条件に該当しない装身具は、FCC の電波ばく露要件を満たさない場合もあるので使用を避けてください。

比吸収率(SAR)に関するさらに詳しい情報をお知りになりたい場合は下記のホームページを参照してください。

FCC Radio Frequency Safety (英文のみ)

<http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/>

欧州における電波ばく露の影響に関する情報

この機種【203Z】は無線送受信機器です。本品は国際指針の推奨する電波の許容値を超えないことを確認しています。この指針は、独立した科学機関である国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)が策定したものであり、その許容値は、使用者の年齢や健康状態にかかわらず十分に安全な値となってています。携帯電話機から送出される電波の人体に対する影響は、比吸収率(SAR: Specific Absorption Rate)という単位を用いて測定します。携帯機器におけるSARの許容値は2W/kg で、身体に装着した場合のSARの最高値は1.46W/kg です。SAR 測定の際には、送信電力を最大にして測定するため、実際に通話している状態では、通常SAR はより小さい値となります。これは、携帯電話機は、通信に必要な最低限の送信電力を基地局との通信を行うように設計されているためです。世界保健機関は、携帯機器の使用に関して、現在の科学情報では人体への悪影響は確認されていないと表明しています。また、電波の影響を抑える場合には、通話時間を短くすること、または携帯電話機を頭部や身体から離して使用することが出来るハンズフリー用機器の利用を推奨しています。さらに詳しい情報をお知りになりたい場合には世界保健機関のホームページをご参照ください。

世界保健機関(英文のみ)

<http://www.who.int/emf>

SoftBank 各機種の電波比吸収率(SAR)一覧はこちら

<http://mb.softbank.jp/mb/support/sar/>

Specific Absorption Rate (SAR) Information for this Product

This product "203Z" meets international guidelines on radio wave protection.

This product is designed to abide by permitted levels for radio wave protection as recommended by international guidelines. These international guidelines are set forth by the World Health Organization in cooperation with the ICNIRP**, and the permitted levels provide a sufficient safety margin regardless of age and health of the user. International guidelines define the permitted levels of exposure for radio wave protection by an averaged Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for this communication terminal is 2.0 watts/kilogram (W/kg). The highest SAR value for this product is 0.584 W/kg when used in the following prescribed manner. While there may be differences between the SAR levels of individual products, all products meet the permitted levels.

Use close to the body

To use this product close to the body, maintain a separation of 1.0 cm from the body. This will ensure this product meets international guidelines on radio wave protection*.

The World Health Organization has announced that "A large number of studies have been performed over the last two decades to assess whether mobile phones pose a potential health risk. To date, no adverse health effects have been established as being caused by mobile phone use."

* A method of measuring SAR when a mobile phone is used at positions other than at the ear was established in March 2010 through an international standard (IEC62209-2). International Commission on Non-Ionizing Radiation Protection.

For more information about SAR, see the following websites:

- Ministry of Internal Affairs and Communications (MIC)

<http://www.tele.soumu.go.jp/e/sys/ele/body/index.htm>

- Association of Radio Industries and Businesses (ARIB)

<http://www.arib-emf.org/index02.html> (Japanese)

FCC RF Exposure Information

Your handset is a radio transmitter and receiver. It is designed and manufactured not to exceed the emission limits for exposure to radio frequency (RF) energy set by the Federal Communications Commission of the U.S. Government.

The guidelines are based on standards that were developed by independent scientific organization through periodic and thorough evaluation of scientific studies. The standards include a substantial safety margin designed to assure the safety of all persons, regardless of age and health.

The exposure standard for wireless handsets employs a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR.

The SAR limit set by the FCC is 1.6 W/kg. The tests are performed in positions and locations (e.g. at the ear and worn on the body) as required by the FCC for each model.

The highest SAR value for this model handset as reported to the FCC when worn on the body in a holder or carry case, is 0.51 W/kg.

Body-worn Operation: This device was tested for typical body-worn operations with the back of the handset kept 1.0 cm from the body. To maintain compliance with FCC RF exposure requirements, use accessories that maintain a 1.0 cm separation distance between the user's body and the back of the handset. The use of beltclips, holsters and similar accessories should not contain metallic components in its assembly.

The use of accessories that do not satisfy these requirements may not comply with FCC RF exposure requirements, and should be avoided. The FCC has granted an Equipment Authorization for this model handset with all reported SAR levels evaluated as in compliance with the FCC RF emission guidelines. SAR information on this model handset is on file with the FCC and can be found under the Display Grant section of <http://www.fcc.gov/oet/ea/> after searching on FCC ID Q78-MF98PUSH.

Additional information on Specific Absorption Rates (SAR) can be found on FCC Radio Frequency Safety website at <http://transition.fcc.gov/oet/rfsafety/>.

Electromagnetic Safety

For body worn operation, this mobile phone has been tested and meets RF exposure guidelines when used with an accessory containing no metal and positioning the handset a minimum 10 mm from the body. Use of other accessories may not ensure compliance with RF exposure guidelines.

European RF Exposure Information

Your mobile device is a radio transmitter and receiver. It is designed not to exceed the limits for exposure to radio waves recommended by international guidelines. These guidelines were developed by the independent scientific organization ICNIRP and include safety margins designed to assure the protection of all persons, regardless of age and health.

The guidelines use a unit of measurement known as the Specific Absorption Rate, or SAR. The SAR limit for mobile devices is 2.0 W/kg. As mobile devices offer a range of functions, they can be used in other positions, such as on the body as described in this User Guide. In this case, the highest tested SAR value is 1.46 W/kg**. As SAR is measured utilizing the device's highest transmitting power, the actual SAR of this device while operating is typically below that indicated above. This is due to automatic changes to the power level of the device to ensure it only uses the minimum level required to reach the network.

The World Health Organization has stated that present scientific information does not indicate the need for any special precautions for the use of mobile devices. They note that if you want to reduce your exposure then you can do so by limiting the length of calls or using a hands-free device to keep the mobile phone away from the head and body.

*The tests are carried out in accordance with international guidelines for testing.

** A method of measuring SAR when a mobile phone is used at positions other than at the ear was established in March 2010 through an international standard (IEC62209-2). MIC technical regulation was reported in October 2011 by the Information and Communications Council.

World Health Organization

<http://www.who.int/emf>

List of Specific Absorption Rates (SAR) for radio waves

<http://mb.softbank.jp/mb/support/sar/> (Japanese)

使用材料

製品本体	使用箇所	使用材料・表面処理

<tbl_r cells="3" ix="